

2025年3月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回4月のてがたんは4月12日(土)で、テーマは「みどり、いろいろ」です。ぜひご参加ください。また、2025年4月から事前申込ではなく当日受付(先着30名)になります。市民スタッフのみなさま、次回の下見は4月6日(日)です。

3月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼遊歩道→けやき広場→市民農園→けやき広場
- 観察日時と天気：2025年3月8日(土) 10:00~12:00 曇り
- 参加人数：18名(大人14名、子ども4名)
- 市民スタッフ：6名(北村章子、伊東茂子、石原直子、伴野茂樹、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 博物館友の会：1名(古澤紀元)
- 鳥博職員：1名(望月みずき)

観察した生き物の記録

下見で見られたものも含む。

【鳥類】カモ科：トモエガモ、カルガモ、マガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ／ハト科：キジバト／クイナ科：クイナ、オオバン／カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ／チドリ科：コチドリ／シギ科：タシギ／カモメ科：セグロカモメ／ウ科：カワウ／サギ科：ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ／ミサゴ科：ミサゴ／タカ科：トビ／カワセミ科：カワセミ／モズ科：モズ／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：ヤマガラ、シジュウカラ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ウグイス科：ウグイス／エナガ科：エナガ／メジロ科：メジロ／ムクドリ科：ムクドリ／ツグミ科：シロハラ、アカハラ、ツグミ／ヒタキ科：ジョウビタキ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ／アトリ科：カワラヒワ／ホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン
家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)／ドバト(ハト科)

【昆虫】カメムシ目：ヨコヅナサシガメ／チョウ目：テングチョウ、キタテハ、モンシロチョウ／ハエ目：ハナアブの仲間

【草の花】ナデシコ科：オランダミミナグサ／アブラナ科：ナズナ、タネツケバナ／シソ科：ホトケノザ、ヒメオドリコソウ／オオバコ科：オオイヌノフグリ／キク科：ノボロギク、ノゲシ、セイヨウタンポポ

【木の花】バラ科：サクラ(オカメザクラ)、ウメ／ツバキ科：ツバキの仲間

3月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「身近な猛禽 トビとミサゴ」でした。てがたんコースでみられる猛禽は10種ほどいますが、そのうちトビとミサゴは最もよく見られます。今回はその2種類に注目し、猛禽類の見分け方や生態を観察しました。また、春らしい花や昆虫を観察することができました。



今月の案内人
北村章子・望月みずき



① 釣り堀にいたカワセミ。



② ウメの花が満開で良い香りがした。

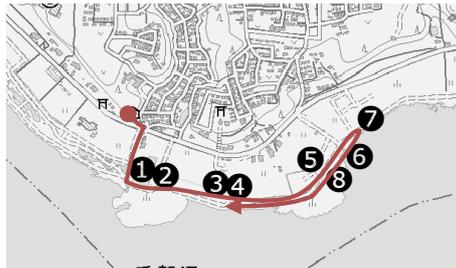


③ 今冬少なかったツグミ。



④ 田んぼの枯れ草に紛れるタシギ。

歩いたルートと観察した生き物



⑤ オオイヌノフグリ。



⑥ 水辺で休息していたカルガモ。



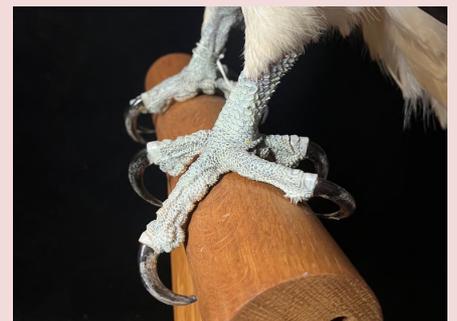
⑦ 帆翔するトビ。尾羽がバチ形で他の猛禽と異なる。



⑧ ヨシ原でカイガラムシを食べるオオジュリン。

今月の鳥 ミサゴ

ミサゴは魚を主食とする猛禽類で、魚を捕るために特化した体の特徴を持っています。長く細い翼は滑空に適しており、長時間獲物を探して飛ぶことができます。水面に急降下して魚を捕える際には、撥水性の高い羽が役立ち、濡れてもすぐに飛び立てます。また、足には滑り止めのトゲがあり、ぬめりのある魚もしっかりと掴めます。さらに、ミサゴは「可変対趾足」といって足の指4本のうち外側の1本を前後に動かすことができ、狩り際には前2本・後ろ2本の向きでしっかり掴めます。これらの特徴により、ミサゴは効率的に魚を捕ることができます。



ミサゴの足。足の指が前2本・後ろ2本になっていることに注目。